

「全少」を日本一研究する指導者による提案

ZENSHOに 挑戦しよう！



養正館館長・渡辺貴斗 第68回



ヒドゥン・カリキュラム (4) 時間を守る

★望ましくない指導とは

以下は、ある一日の道場での出来事です。以下の3つの中で、望ましくない指導がひとつありますが、どれでしょうか？

- ① 遅刻してきた子がいたので、次からは気をつけるようしっかり指導した。
- ② 元気よく返事をした子がいたので、みんなの前ですかさず褒めた。褒められた子はうれしそうだった。
- ③ 試合直前なので、汗をかいて走り回って熱血指導をした。気付いたら、稽古終了時間を10分延長するほどだった。子供たちは皆、やり切った素晴らしい笑顔で帰宅していった。

答えは、③です。①で、時間を守らなかった子に時間を守るよう指導したのに、指導者本人が稽古終了時刻に指導を終えることができませんでした。時間を守らなかったことについて、子供たちに謝罪することもありませんでした。

★まず、自分が時間を守る

延長するほど充実した指導ができたことは決して悪いことではありませんが、子供たちに時間を守るよう指導しておいて、自分が時間を守れないのは本末転倒です。これも、前回までに取り上げましたヒ

ドゥン・カリキュラムの例となります。ヒドゥン・カリキュラムとは、「こちらが意図していないメッセージを、無意識下で無自覚のうちに相手に伝えてしまうこと」です。

この場面でも、指導者はそんなつもりではないのに、意図したものと異なるメッセージを子供たちに伝えてしまっています。指導者の意図は、以下のように間違っていて伝わっていたことでしょうか。

▶指導者「今日も延長するほど充実した熱血指導ができた、大変満足だ！ 子どもたちも親御さんも、喜んでくれているに違いない！感謝してもらいたいくらいだ」

▷子ども1「また、時間を守らず延長した。このあと、もうひとつ習い事があるのに、困るんだよな」

▷子ども2「私が遅刻したらすごく怒ったくせに、先生は時間を守らないんだな」

★指導者が遅刻する

私は若いころ、一人で走り回り、汗をかき、一生懸命しゃべって声を枯らして熱血指導していました。毎回10分、20分の延長はざらでした。子どもたちも、親御さんも満足していると勝手に思い込んでいました。こちらはサービスで延

長してあげている、とまで考え、完全な思い上がりでした。今考えると赤面してしまいます。

きちんと時間内に稽古が終わるように稽古内容を組み立てて、段取りしてから稽古に臨むことが大切です。熱血指導するのはよいのですが、別に、時間内に終わるよう熱血指導すればよいのです。それがプロの指導者です。

よって、指導者が道場によく遅刻してくる、なども“指導者は特別で許される”との思い上がりです。自分が遅刻しておいて、子供たちに「時間を守れ！」と指導しても、子供たちの心には指導者の言葉は届きません。もし、それでも子供たちが指導者の指示にきちんと従っているとしたら、脅して押さえつけて指導しているからかもしれません。

★間違いを謝らない

指導者も人間ですので、間違いや失敗はあります。そこで、「みんなゴメン！一生懸命教えていたら、気付かないうちに5分も延長していた。次からは気をつけます」と素直に謝れば、誰も文句は言いません。何よりも子どもたちのために時間延長したのですから、悪いことをした訳ではありません。問題は、指導者が自分の失敗や間違いを素直に認めない、子供たちに謝罪しないということです。

このように、間違いを訂正せずにごまかすことも、ヒドゥン・カリキュラムとなります。

▶指導者「あれっ、さっきの説明間違えたかな？
でも先生の威厳を保てなくなるから、うまくごま

かそう。最後にうまく辻褄を合わせれば、コイツら気づかないだろう」

▷子ども1「結局何が正しいんだろ？先生の説明はコロコロ変わってよく分からない。真剣に聴くのはムダだからやめよう」

▷子ども2「先生は間違えたのに、誤りを正さない。大人ってズルいな。自分が間違えたときもウソをついてごまかそう」

「先生は間違っただけじゃない」、「失敗してはいけない」、「いつも尊敬されないといけない」とプライド高く考えてしまいますが、子どもたちは案外、そんなところにこだわっていません。間違いを認めたからといって、指導者の評価は落ちたりしません。「ゴメン、間違えた」と素直に間違いを認める大人に子どもたちはついていくのです。

PROFILE

■渡辺貴斗 TAKATO WATANABE

1968年4月20日生まれ。7歳から父である館長から空手の手ほどきを受ける。児童心理学や成功哲学を研究して子どもたちの「心をつくる」指導法に切り替え、2013年5名、2014年・2015年7名、2016年5名、2017年9名、2018年・2019年5名を全少入賞させ、一道場での全国最多入賞数の記録更新中。道場経営でも、一道場で350名を超える大躍進を続ける。



空手道場 養正館 / 静岡県沼津市本田町 11-12



どうやって道場生 350名に増やしたか？ その 21

■紹介者へのお礼② お礼は慎重に

イスラエルの保育所 10カ所が、お迎えが遅い親に困りはてた挙句、遅刻した親に毎回3ドルの罰金を課すことを決めました（実際は経済学者ニージ&ルスティキーニによる実験）。すると、遅刻する親は減るどころか、逆に増えてしまったということです。それまでは遅れて申し訳ないという後ろめたさから、少しでも早くお迎えに行こうと頑張っていた親たちが、「お金を払えばいいんでしょ」とお金で解決できたことで罪悪感がなくなってしまったのです。

この話には続きがあって、保育所は罰金制度を止めたのですが、遅刻組はその後も少しずつですが増え続けたということです。

このように、「遅刻して申し訳ない」と道徳心から後ろめたく思っていた親たちが、お金で解決できる市場原理を導入したことで悪びれることもなく堂々と遅刻するようになったのです。いったん市場的規範に頭が切り替わってしまうと、二度と道徳的規範に戻るこ

はないという恐ろしい実験結果です。

前回のコラムで、体験入門者を紹介してくれたママさんにプレゼントをあげることを考えました。今まで一切のお礼なしでも道場のことを考えて体験入門者を紹介してくれた道場応援団であるママさん達に、一旦プレゼントという報酬をあげてしまうと、ママさんたちの頭の中は市場的規範に切り替わり「プレゼントをもらうために紹介する」、「プレゼント無しで紹介したら損をする」のように考えるようになってしまうのです。

紹介してくれるママさんにはぜひお礼をしたいのですが、いったんお礼（報酬）をあげてしまうと、そのあともプレゼントをあげ続けなければならないという危険性ははらんでいます。お礼はした方がよいと思いますが、そのあとのことまで考えて行う必要があるのですね。